



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

第9回定時評議員会開催

2024年度事業報告・計算書類承認

任期満了に伴う新理事14名を選任

第41回臨時理事会開催 代表理事に鳩山由紀夫理事を選定

6月21日(土)午前11時より、友愛サロンに於いて第9回定時評議員会が開催され、2024年度事業報告及び計算書類が承認された。今回は初のWebによる参加も可としての開催であったが、滞り無くその役割を果たした。任期満了に伴う新理事の選任も行われ、新たに就任した2名の理事を含む14名の理事が選任された。

評議員会終了後、第41回臨時理事会が開催され、代表理事に鳩山由紀夫理事を選定した。

評議員会はまず互選により萩原直三評議員を議長に選任された。

理事長挨拶に続き、協議事項の説明が行われ、内容に付いての質疑が交わされた後、採決に入り、第一号議案2024年度事業報告、第二号議案計算書類(決算)共に全会一致で承認された。

ここでは事業報告について纏めた「総括」を紹介し、報告としたい。

続いて第三号議案に移り、理事会から推薦を受けた14名に対し、一人づつ採決を行った結果、14名全員が選任された。

評議員会終了後に開催された第41回臨時理事会に於いて、全会一致で鳩山由紀夫理事を代表理事に選定した。新理事の任期は2027年の定時評議員会開催時までとなる。

総括

2024年度の事業実施

は、多様性に富んでいたといえる。

姉妹団体OEJABから、数年ぶりに12名の派遣員が来日し、広島訪問・京都見学など平和・文化について学ぶ機会を得た。また、年々数を増すOEJABへの派遣員募集にあたっては、初めて第二次選考として面接による選考を取り入れられた。選考委員各位の、多大なご協力を得て男子4名、女子2名の派遣員が選ばれ、3月にはOEJABを訪問した。6名が異口同音に「貴重な経験であった」「新たな仲間が増えている。彼らが新たな友愛ユニオンのメンバーとして活躍してくれると確信している。

こうした報告書を読むと、この事業の意義を強く感じ、正に友愛精神の種蒔きは着実に行われていると実感できる。

国情不安定なミャンマーからは、研究生が来日し、堆肥づくりパンフレットの監修にあたってくれた。藤井名誉教授(東京農工大学)のご尽力もあり、現地に適応できる堆肥づくりを、解りやすいリーフレットにして配布する計画は、地道に確実に前進している。

「友愛小論文コンテスト」は、新たな展開を示し、韓国・全州大学校で、そして国内においても千代田国際語学院の協力を得て、初の事業が実現できた。また、中国に於いての再開を目指していたが、中華全国青年連合・中国国際青年交流中心のお力添えもあり、次年度には中央民族大学で実施されることとなった。

これらの多彩な事業展開に於いて、大いに活躍したのが友愛ユニオンのメンバーである。

韓国全州大学校でプロデュースの一つ「テーブルディ

指導し支え、活発なものにしていくため、理事各位が尽力してくださっていることも、付け加えたい。

この友愛ユニオンメンバーによるアテンドには後日談があり、3月に友愛からの派遣員がウイーン/OEJABを訪問した折には、前年8月に来日したOEJABの若者たちが、友愛の派遣員をアテンドしてくださったという。これこそ生

きた国際交流の実践であり、確実に友愛理念が伝播されていることを物語っている。

公益財団法人友愛の活動は、規模は細やかな事業の連続である。しかし、定款に謳っている「国内外の青年や社会人の交流を深め友愛の理念を次世代に継承、発展させる人材を育成し、国際相互理解を深めもって世界平和に資することを目

的とする」という目的を、着実に果たしていると思える。これからも掲げた目的を実現すべく、友愛理念の普及・若者の育成に力注いで行きたい。

2024年度事業報告・計算書類は、公益財団法人友愛のホームページ(概要・情報公開)に掲載されており、印刷も可能です。



鳩山由紀夫理事長



萩原直三評議会議長



戸澤英典評議員



小西健斗評議員



青山高恵評議員



田中正基評議員



評議員会の様子



高梨佳大評議員



森崎桃子評議員 (Web参加)

友愛時評

▼この季節になると高校野球が気になる。草野球しかやったことはないが、何しろ大谷翔平選手を生み出した岩手県で生まれ育った身、米国や中南米の連中相手には日本の野球を誇らしく語っている。▼三年前の夏、仙台育英が東北勢として初めて甲子園で優勝した時には感慨もひとしおであった。深紅の大優勝旗が新幹線で「白河の関」を越える時のテレビ中継も見守ったが、東北人にとってはまさに悲願の達成であった。「白河以北一山百文」という侮蔑的表現を想起させる格差を感じることはなかったが、高校野球の力の差はなかなか克服できなかった。▼かつての東北勢には雪国のハンデがあった。最近では、強豪校の中には立派な屋内練習場を持つところもあるし、温暖化の影響ゆえか積雪によってグラウンドを使えない期間もぐっと短くなった。むしろ、問題は競技人口の少なさだろう。少子化のスピードが早い地方では、野球に限らず、スポーツ少年団の統廃合が進んでいる。▼郷土愛から「おらが代表」を応援する高校野球ファンにとっても悩ましい問題に「野球留学」がある。サッカーなど他の競技では、クラブチームや優秀な指導者のいる高校に全国から将来有望な子が集まるのは当然に感じることが、高校野球では各都道府県代表の伝統が続き、旧制中学以来の古豪らしいところが決定的に違う。▼筆者が灼熱の甲子園を初めて経験したのは、姉の通っていた公立高の試合を応援しに行った時だった。「古豪四十七年ぶりの甲子園!」のニュースが流れ「かちわり氷」を頭に乘せながら応援する姿を夢想しつつ、この原稿を書いている。(ヒゲ)

2025年度友愛小論文コンテスト第1プロジェクト

韓国 延世大学校にて実施

友愛ユニオンから6名の青年代表団が訪韓

5月16日（金）から18日（日）の3日間、鳩山由紀夫理事長を団長に、理事、評議員、そして友愛ユニオンから参加の6名と共に、友愛訪韓団が韓国ソウルにある、延世大学校を訪問、日韓の若者同志の交流会を実施した。これは「友愛小論文コンテスト」及び普及活動として実施されたプロジェクトで、3日間の短い時間ではあったが、有意義な交流が行われた。友愛ユニオンによる発表「私にとって友愛とは」（日本語・英語）及びテーブルディスカッションなど活発な交流の様子が展開された。参加の友愛ユニオンの感想文を掲載し、本プロジェクトの報告としたい。

他者との違いを受け入れる

浦 彩人

私にとって友愛とは、他者との違いを受け入れ互いに歩み寄ること、大きな成果を出すことを可能にする心構えである。

韓国は日本とは隣国であるが、国境線を引いている以上、両者には価値観や文化圏で、互いの違いを乗り越えていく必要がある。

化に大きな隔たりが存在する。例えば韓国ではキムチに代表されるように、香辛料が多用された食文化であり、同じ保存食でも、漬物、味噌など塩分に重きを置いた日本食をよく食べる私たちには馴染みがないものだ。

今回の延世大学校訪問は、そのような近くて遠い文化圏で、互いの違いを乗り越えていく必要がある。

愛の青年代表から大学での企画に歩み寄る中で、向こう側からも財団の価値観に対する歩み寄りが起きたのである。

このような歩み寄りを可能にしたのは、異なる考えを受け入れる精神的な余裕と、その上で新たな価値観へ歩み寄るだけの好奇心を生み出す環境だろう。

少子化という日韓共通のテーマにおいて、互いの国における少子化原因を尋ね合うという、他者を知ろうとする友愛的な交流があった。

それに加えて、後半に意見をまとめる際には、学生側から少子化対策の結論に友愛精神を盛り込もうとする動きがあった。私たち友愛ユニオンから6名の青年代表団が訪韓した。

また、異なるものへの好奇心が無ければ、精神的余裕があっても情報を得ようとは動かない。今回のような友愛精神への歩み寄り、は、常日頃から大学での活動に少し好奇心をもって打ち込んでいくことに裏打ちされた行動であると私は考える。

以上の体験から、私は今回の訪韓を通じて、友愛を伝播させるためには、相手に精神的余裕を生み出し、そして好奇心を刺激することが必要であると感じるに至った。異なる文化圏に足を運び、異なる価値観と接する機会として、今後とも私たちの公益財団法人友愛による交流活動を積極的にサポートしていきたい。

友愛ユニオンとしての自覚が増した韓国訪問

成田 葵

最初にこの公益財団法人友愛を知ったのは、オーストリアでの研修がきっかけでした。おそらく、ほとん交流会の会場 テーブルディスカッションは英語で行われました

どのユニオンメンバーと同じように、当初は友愛への思いというよりも「オーストリアに行きたい」という気持ちから関わり始めました。

私は2期生としてオーストリアに派遣されたため、気づけば友愛に関わってから6年が経過しました。そして、今回の延世大学校との交流や、前回の千代田国際語学院との交流を通じて、改めて自分の中で友愛の思想やこの団体について深く考える機会を得ました。

その中で、「自分は友愛財団を代表して派遣されているのだ」という実感とともに、これからは友愛ユニオンの一員として、この団体を支えていきたいという思いが強くなった研修でした。

共有する未来を見据えて

出倉正啓

「友愛」の青年代表として韓国を訪問するにあたり、事前に数回にわたり開催された勉強会で韓国の歴史や社会を事前に学び、準備を積み重ねてきた。その如実な成果としてディスカッションでは、予想通りのレベルの高い議論を行うことができた。それと同時に韓国社会が抱える社会問題、少子化社会の進展や競争社会の苛烈さを生々しく知ることができた。首都圏への一極集中、高等教育への進学プレッシャーおよび親の進学熱、学校教育の軽視と受験産業の興隆、よりよい企業へ就職したいという上昇志向、その全てが両国で共通する問題であるとともに、その度合いは韓国のほうがはるかに上回っている。

への関心、さらには「友愛の思想に興味があったから参加した」との声もあり、とても印象に残りました。社会人になってからも社会課題をテーマに議論でき、年齢や立場を超えて意見を交わせる場を提供してくれる友愛は、学生を卒業した時間が経過すればするほど、その価値を実感していきます。このような貴重な機会をいただいているからには、今後は友愛ユニオンの一員として、この団体について恩返しができるのかを考えていきたいと思うことができました。韓国訪問となりました。

た。日本でも地方創生の話題が政治課題として登ることはあるが、韓国の首都圏一極集中は群を抜いたものであり、「よい就職のためにはソウルにある有名大学に行くしかない」という思想のもと、人口が首都圏に吸い寄せられているのことであった。

私たちのグループでは、これら日韓に共通する課題について以下のような結論に至った。それは、「首都圏でよい暮らしをする」という理想像がSNSを通じて人口に膾炙した結果、みなが目指すために先述した社会問題が発生し、その結果として少子化に見舞われているということだった。この解決にはさまざまなことが考えられるが、先鋭化する社会風潮の変容、多様な価値観を認める風土、政府による子育てへの財政支出が必要なことは確かである。

今回の韓国訪問は、準備期間に非常戒厳・大統領選免・大統領選選挙戦が行われるというタイムリーな時期のものであり、ソウルでは前夜、ホテルの一室に集まり、スピーチの最終仕上げ。皆真剣



延世大学校参加者と、友愛ユニオン青年代表団が揃って記念撮影

延世大学校の学生は、大学側から「参加証明書」を授与された日韓の若者が一堂に会し、同じテーマで議論のテーブルに付き、ディスカッションを重ねて行くことは、友愛理念普及の実践であり、平和を目指す活動の一つとなる



延世大学校前にて全員さあこれからの活力が



鳩山由紀夫理事長は、延世大学校創立140年記念の基調講演を



交流会の会場 テーブルディスカッションは英語で行われました

また、韓国の学生たちからは、今回のテーマであった少子化に直面する韓国と日本の課題や解決策について議論するだけでなく、私たちの友愛スピーチに対するコメントや、財団の活動

（写真左下）スピーチの内容は六人六様で、些細な対話を通じた人と人とのつながりから、複雑な関係の中での他者理解まで多岐にわたり、ユニオンメンバー一人ひとりの思いを知ることができました。

また、韓国の学生たちからは、今回のテーマであった少子化に直面する韓国と日本の課題や解決策について議論するだけでなく、私たちの友愛スピーチに対するコメントや、財団の活動



前夜、ホテルの一室に集まり、スピーチの最終仕上げ。皆真剣



鳩山由紀夫理事長は、各テーブルを廻り、言葉を交わしていた



堀山明子さん

友愛ユニオンメンバーは、5回に亘る勉強会を経て今回の訪韓に臨みました。課題図書6冊を読みこなし、テーマを議論し、今の韓国を知るために韓国在住の記者・堀山明子さんからwebで講義の時間をいただきました。貴重なお話を沢山伺うことができました。お世話になった堀山明子さんと、直接お目にかかることができました。



選挙戦が繰り広げられる日常を垣間見ることでもできた。進歩主義政党の新大統領のもと、現在の良好な日韓関係がどうなっていくかは様子見が必要だが、せめて若者世代だけでも、我々が延世大学で行ったディスカッションのように共有する未来を見据えて行動することができれば、揺るぎない強固な関係を築くこと交流会の司会進行を担当した後藤大智理事。何と全て韓国語で！

ができるのではないかとと思う。それこそが「友愛」の体現であり、私はそれを望む。

最後になるが、韓国社会の実態を豊富な経験をもとにご講義いただいた堀山明子様に感謝を申し上げる。

(写真上)

多くの出会いと困難

小倉佑太

私は千代田国際語学院・延世大学校での友愛活動を通して、人と人との繋がりが友愛であるという思いをさらに強く感じるようになりました。また、それは友愛精神を育むにあたり最も大切なことであり、そしてそれを実践する難しさを痛感しました。と同時に今回の活動を通して私はたくさん新たな人々との繋がりを得ることができました。その繋がりがさらに新しい友人や交流の輪が増え、現在では驚くほど沢山の方と親睦を深めることができております。

このように友愛の活動の神髄は無から有を生み出すことにあると思います。知りえなかった繋がりを友愛が生み出し、その繋がりが無限に広がる様子を目の当たりにした経験でした。

しかしこの繋がりを広げていくためには、自分自身だけではなく、それを伝える相手も友愛の精神を持つことが必要なのだと感じました。延世大学では友愛精神を伝える難しさを感じる場面もありました。友愛と

生の声を聞く―相互理解の一步

堆 美優

今回の韓国訪問にあたって、私たちは何度も勉強会を重ねてきました。その中で痛感したのは、韓国と日本とのあいだには歴史認識に大きな隔たりがあるということでした。だからこそ、私たち日本人は、韓国で育った方々が抱く歴史観や対日認識を、最初から否定したり拒んだりするのではなく、彼らがその考えに至った背景に想いを馳せ、理解し、寄り添う姿勢が必要であると学びました。

鳩山理事長は、日本が第2次世界大戦下で犯した過ちに対する償いを極めて重く受け止めておられます。今回の講演でも、日本が果たすべき歴史的責任を明確に語り、謝罪の意を示されました。このような姿勢を、かつて日本の総理大臣を務めた方が自ら示すことは、非常に大きな影響力を持つものだと感じます。自

民党政権とは異なるアプローチをとる鳩山理事長は、日本国内では批判を受けることもあります。韓国においてはその誠意ある姿勢が高く評価され、歓迎されていることに、私たちは現地での交流を通じて気づかされました。

私たち若者にとって大切なのは、こうした先人の姿勢から学び、過去の過ちを曖昧にするのではなく、今もなお相手の心に生きている記憶や想いに寄り添いながら、共生と友愛の道をともに歩もうとすることだと思

います。

今回の訪問のメインイベントは、延世大学の学生たちとのグループディスカッションでした。テーマは、少子高齢化という共通の課題について、日韓の若者がどのように向き合っているかというものでした。

政府の政策に対する若者の率直な意見など、インターネットでは知り得ないリアルな声に触れることができ、非常に興味深い時間となりました。

たとえば、韓国政府が主催するマツチングイベントについて、多くの学生が「現実味がなく、やや滑稽に感じる」と話していたのが印象的でした。また、教育に関する話題では、韓国における学業へのプレッシャーが日本以上に厳しいことが語られました。特に印象的だったのは、「ヘリコプター母」という表現です。これは、母親が子どもの教育に過度に関与し、常に監視する様子を表す韓国特有の言い回しです。グループの学生たちは、自分の母親がまさにそうだったと語り、将来自分自身もそうなりそうだと笑いながら話していたのがとても印象に残りました。

このように、共通の課題について日韓の若者が率直に語り合い、お互いの価値観や社会背景への理解を深めることができたことは、今後の協力関係や相互理解の土台となる大きな一歩になったと確信しています。

この貴重な機会を与えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

す。今後も友愛ユニオンの一員として、友愛の精神を世界に広げていけるよう、努力を重ねてまいります。

.....

若者同士の共通項

吉田大志

延世大学校でのテーブルディスカッションを通して、私は「大企業に入りたい」「30歳までに結婚したい」「卒業後は故郷に戻りたいが、スキルに見合った収入の得られる仕事がない」「20代は独身の自由を乐しまたい」「教育費が高いため、たくさん子どもを持つのは難しい」「政治には関心がなく、政府の若者支援策は機能していない」など、多くの率直な意見を延世大学の学生から聞くことができました。

これらの声に、日本の若者として強く共感しました。彼らとのディスカッションは、まるで日本の同年代と将来や政治について語り合っているかのような感覚であり、「日韓の若者の価値観の差異は、もはや存在しないに等しい」というのが率直な感想でした。

日韓の若者の意見や価値観が共通していることは、両国が歴史的に中国文化の影響を強く受け、その後20世紀以降はアメリカ主導の資本主義・自由主義経済圏に属してきたという背景と関係があると感じました。

日韓の若者は、世間体や親の期待に応えつつも、自分らしい人生を自由に生きたいという思いとの狭間で揺れ動いています。延世大学の学生たちもまた、私と同様の葛藤を抱えていることがわかり、私は彼らに強いシンパシーを感じるようになりました。

また、日韓の若者が共通して持つ資本主義・自由主義的な価値観が、「都市への一極集中」や「少子化」といった両国に共通する社会問題の一因であることを改めて認識しました。私の母校一橋大学の後輩も、延世大学の学生たちも、学業に励み、程度の差こそあれ、卒業後は高給が期待される都市部の大企業への就職を目指しています。大企業で裁量を持つには出世が最も確実な方法であるため、男女問わずキャリアアップに意欲的です。特に、これまで出産・育児の担い手とされてきた女性が仕事を優先するようになったことで、少子化が一層加速しているのではないかと感じました。

韓国訪問の最終日には、北朝鮮との国境近くにある非武装地帯(DMZ)を訪れ、人生で初めて北朝鮮の風景を目にしました。そのときふと、「北朝鮮の若者は日本についてどのような印象を持っているのだろうか」「私たちは彼らとも共感し合える日が来るのだろうか」と思いを巡らせました。朝鮮半島が平和的に統一され、私たちが自由に北朝鮮へ渡航できるようになり、日本と北朝鮮の若者が両国の未来について語り合える日が来ることを心から願いながら、帰路につきました。

千代田国際語学院における「友愛小論文コンテスト」表彰式実施

友愛賞2名（管越さん、于英哲さん）入選3名に賞状授与

和やかな交流のひととき・中国伝統芸能「快板」の披露も

6月29日（日）友愛サロンにおいて、友愛小論文コンテストの表彰式が行われ、参加の受賞者に賞状・奨学金（賞金）・記念品が贈られた。

これは去る2月15日（土）に千代田国際語学院の池袋校で開催された交流会（2024年度事業として実施）を基に、「私にとって友愛とは」と題する小論文を募り、選考委員によって、友愛賞2名入選3名の作品が選ばれ、理事会において承認された事を受け、授賞式の運びとなったもので、当日は友愛賞受賞の管越さん、

入選の薛佳琪さんが参加され、嬉しそうに賞状を手にした。

当日は千代田国際語学院を始め多くの専門学校などを運営する千代田教育グループの栗田秀子会長も出席され、受賞者にお祝いの言葉を贈った。

午前11時、井田安信理事の進行で、授賞式が開催された。攬上哲夫理事が挨拶に立ち、「新たな交流が基となって若者同志の相互理解が進む事は素晴らしいことです」と述べた。

続いて栗田秀子会長が「出合いの驚きと感動が、

こうした素晴らしい交流の結果となって積み重なって行くことは、本当に嬉しいです」と、このプロジェクトへの賛辞を述べた。

続いて賞状の授与に移り、攬上理事から賞状・奨学金が授与された。

友愛賞受賞の管越さん、入選の薛佳琪さんが受賞の喜びを語った。

攬上哲夫理事／小論文コンテスト事業を担当し、大活躍

管越さん

日本語を学んでいます。自信がもてる状態ではなく、この受賞が私を勇気づけてくれました。この交流を機に、もっと頑張っていきたいと思っています。

美術大学に進学して勉強していますが、日本語の使い方、驚く場面があった。

入選 薛佳琪さん 現在は東京の美術大学で勉強中

り、日々勉強だと思っています。この受賞はとても嬉しいです。

西川伸起理事から、全員の作品が掲載された作品集が、栗田会長に贈られ、式典は滞り無く進んだ。最後に千代田国際語学院の小松洋大先生が、中国の芸能「快板」を披露してください。

今回の来日は個人的な旅行ではあるが、せっかく日本に行くなら鳩山理事長にご挨拶したい、また、前回訪れて感激した鳩山会館を妻にも見せたいとのご連絡をいただき、鳩山会館のご案内と、運営委員による簡単な食事を用意した。

鳩山由紀夫理事長も、限

OEJABライター・フリーリッヒさん来日

鳩山由紀夫理事長と親密な話し合いを

6月10日（火）から約10日間の予定で、OEJABの専務理事であるライター・フリーリッヒさんが来日された。

今回の来日は個人的な旅行ではあるが、せっかく日本に行くなら鳩山理事長にご挨拶したい、また、前回訪れて感激した鳩山会館を妻にも見せたいとのご連絡をいただき、鳩山会館のご案内と、運営委員による簡単な食事を用意した。

前回訪問した鳩山会館を奥様にも見せたかったと再来

改めて資料に熱心に見入っていました。奥様は「硯」に興味を

友愛ホームページのご案内

公益財団法人友愛のホームページでは、機関紙「友愛」で紹介した記事の写真がカラーでご覧いただけます。

また、機関紙「友愛」は創刊号から現在の号まで、全てのバックナンバーが掲載されています。印刷も可能ですので、是非ご利用ください。

<https://yuai-love.com>
スマートフォンはQRコードからどうぞ



全員で記念撮影。後列左から小倉祐太さん、吉田大志さん（友愛ユニオン）西川伸起理事、羽中田元美事務局長、ピート染谷真奈美事務局長、小松洋大先生
前列左から攬上哲夫理事、薛佳琪さん、管越さん、栗田秀子会長



栗田秀子会長。挨拶は苦手とおっしゃりながら、素敵なスピーチを



友愛賞受賞 管越さん。賞状を手嬉しそうな表情でカメラに



見事な「快板」の妙技を披露してください。小松洋大先生



鳩山由紀夫理事長を表敬訪問。今後の交流に意欲を示して



大好きな日本食に舌鼓。今回は「天ぷら」おいしいの連発！



◆終戦80年の年にあたる今年、様々なドキュメンタリーがテレビで放映されています。6月23日沖縄「慰霊の日」毎年犠牲者のお名前が読み上げられます。いかに凄惨な地上戦であったのか、県民の4人に1人が亡くなったという事実がそれを物語っています。NHKの朝ドラをみても、戦争の悲惨さは伝わって来ます。せめて6月に、いや東京空襲の時点で終戦を迎えていれば、原爆投下を含むその後の悲しみは生まれなかっただろうにと強く強く思います。叔父も戦死しなかつたでしょう。戦後生まれの私が思うことです。ただただ多くの魂の安らかなることを祈るばかりです。（も）